

情報 A の授業実践について

県立富山西高等学校
教諭 山本 雅和

- 1 . 本校の概況
- 2 . 生徒の概要
- 3 . 情報に関する生徒の概要
- 4 . 本校での情報の授業の概況
- 5 . 全体を通しての感想（まとめ）

1. 本校の概況

本校は、今年度実施された市町村合併により富山市となったものの、古くからの町、婦中町に地域の学校として認識され親しまれている高校である。大正13年に婦負農学校として開校し、農業科、蚕業科、園芸科、農村家庭科、食品化学科、生活科、土木科、化学工業科、家庭科学科など、職業高校として様々な科の改編を経て、平成6年、現在の普通科と土木科の併設校となり、昨年創校80周年を迎えた伝統ある学校である。

南北のグラウンドの間を国道359号線が横切っている特殊な立地にあり、かつてはラグビー部が強豪として有名であった頃もあったが、今は、もっぱらフェンシング部が毎年、北信越大会や全国大会に出場し、県外にまで富山西高等学校の名を知らせる唯一のものとなっている。部活動は割合活発なほうで、ここ数年は1年生全員が部活動加入となっている。コンピュータを40台設置したコンピュータ室は2教室あります。

6～7年前、学校近くに大型ショッピングセンター（ファボーレ）ができ、学習環境は余り良いものとは言えなくなっている。そのためばかりとは言えないかもしれないが、つついファッションや遊びに耳目を奪われ、そのことも本校生徒の印象を悪くしている一因となっているように思われる。

高等学校において、教科「情報」が実施されてから3年目を迎えるが、毎年、卒業生が教育実習に本校を訪れている。

2. 生徒の概要

学級構成は、ここ数年学級減が続き、今年度ようやく3学年とも同数となり、普通科3クラス、土木科1クラスの1学年4クラスとなっている。普通科には英語実践コースが含まれ、希望者は2年次からコースに分かれることになっている。コース設置当初は、地域から優秀な生徒が推薦入学してくることもあったが、ここ数年、自分が何をしたいのかわからない生徒たちが進路選択を先延ばしするためか、希望者が減少しており、昨年度は英語実践コースの推薦入学希望者が0名となっている。

生徒の出身中学の内訳では、3分の1は隣接する速星中学校で、残りの生徒は、西は小杉地区、北は岩瀬地区、東は水橋地区、南は八尾大沢野地区からというように新富山市の全地区と射水郡とからのかなり広いエリアから集まってきている。

生徒の学力は、模試の結果などの示すように県下の普通科では残念ながらほぼ最下位にあり、いくつかの職業高校よりも下位にあるのが現状である。中学生の時はほとんど授業についていけず、勉強に対する苦手意識が強い生徒が大半である。実習を伴う授業であっても、成績のいい生徒に機材を独占され、やったことはあるが自分で触ったことはないというのが現状である。また、母子家庭も増えてきており、経済的に余裕の無い家庭の生徒が多いようである。

3. 情報に関する生徒の概要

コンピュータを扱う授業でもたいていの中学校では2名に1台の機材しかないため、成績のいい生徒が主に機材を扱い、自身はほとんど触ったことがないという生徒が多いのが現状である。このため、コンピュータを扱うこともほとんど初めてといった状況の生徒が大半を占めています。

また、比較的母子家庭が多く、両親が健在であっても経済的に余裕のない家庭の生徒が多いため、家庭にコンピュータが無いことのほうが多いように思われる。ましてや、自分個人で使えるコンピュータがあるなどという生徒は余り多くなく、逆にこういった生徒は勝手にインターネットからゲームをダウンロードしたり、教育用のコンピュータには向かないような壁紙を貼り付けるなど、使い慣れてはいるが、その分、余計手間がかかることが多いようである。

このように生徒の持つスキルの差はかなり極端で、前に述べたようにせいぜいゲームやお絵かきソフト位しか使ったことが無い生徒が大半であり、エクセルやワードなどを使ったことがある生徒はクラスで数名程度であり、自分のwebページを持てる位の力がある生徒は学年でも1～2名程度である。このため、実習をするためコンピュータを使うにしても、まず、キーボード上を見回して押すべきキーを探し、ようやく1つ1つ打っていくという状況である。

4. 本校での情報の授業の概況

本校では、情報の基礎について広く生徒に知らせることを目標として、情報の授業を行っている。また、現在の生徒の状況を考えて、必要と思われる項目については、適宜時間を割いている。本校は「実教出版の情報A」を使用しており、3年間を通じて、時間を多くかけた項目は、「情報の検索と収集」、「ネットワーク利用の心がまえ」である。

「情報の検索と収集」では、生徒たちがコンピュータを使う目的で一番多いと思われる情報の検索について座学と実習を行っている。普段行っている情報検索も人から聞いて知ったやり方だけで、基本的なことさえ知らずに行っている生徒が大半を占めているのが現状である。何気なく行っているコンピュータを使った情報検索も、やり方を変え、検索方法を考えるともっと効率良く検索できることを知らせるように心がけている。

「ネットワーク利用の心がまえ」では、情報の保護とセキュリティについて座学と実習を行っている。知的所有権についてでは、中学校でもよく行われている調べ学習を行うことにより、少しでも関心を持たせるように努めている。ネット上の情報の使用についても同時に学習しているが、画像などの知的所有権については、みんなやっているからOKだと思っている生徒がほとんどである。知的所有物の個人での使用のように使用が認められる場合と認められていない場合の区別がきちんとできるよう心がけているが、なかなか浸透していないのが現状である。

(次頁に続く)

4．本校での情報の授業の概況（前頁からの続き）

2学期末から3学期にかけては、プレゼンテーションソフトを使っての実習として、生徒各々に簡単な学校紹介、または、自己紹介の作成を行わせている。まだ、入学して半年余りの1年生ということもあり、生徒たちは自分たちの学校について知らないことも多い。この機会を利用し、より多くのことを知ることができればと考え、学校紹介という題材を設定しているのだが、余り自分の学校について関心が無いようで、3学期の後半に各クラス毎に発表を行うとしているのだが、自己紹介を題材に選ぶ生徒がほとんどである。またこの際、ネット上にある画像を使用する生徒が多く、前に述べたように知的所有権での学習が充分浸透していないことを毎年、痛感させられる。

5．全体を通しての感想（まとめ）

毎年、1学期中間考査前後の時期に卒業生が教育実習を行うので、情報に関して生徒に必要と思われることをなるべく自由に、自分で考えた教材を用いて授業案を作成してもらっている。大学で情報について専門に学んできている実習生たちの持つ知識や技術は、参考になることも多いように思われる。

情報の授業を担当して3年目となるが、毎年世の中の情報に関する事柄は、日進月歩で進んでおり、教科書の内容は常に古いものとなり続けているようである。また、高校生が一番身近な情報ツールである携帯電話についても日々変化し続けており、なかなか知識だけでは追いつかないことも多い。自分自身の知識と技術が対応しきれないことも多くあり、力不足を痛感させられることが多いように思われる。また、実習を実施する際には補助の教員を配置しTTの形式で授業を行っているが、学級減による教員配置の減少に伴って、自分を含めて、情報に関する知識や技術が充分でない教員がまだ多く、十分な指導を行えないのが現状である。